

表7 受動喫煙の有無による加濃式社会的ニコチン依存度の講義前後の設問別得点 (n = 92)

項目	受動喫煙なし群		受動喫煙あり群	
	講義前 (n = 53)	講義後 (n = 48)	講義前 (n = 39)	講義後 (n = 39)
Q1: タバコを吸うこと自体が病気である。	0.98 ± 0.97	0.65 ± 0.93	0.95 ± 0.86	0.56 ± 0.75
Q2: 喫煙には文化がある。	0.85 ± 0.77	0.46 ± 0.74	0.77 ± 0.81	0.64 ± 0.90
Q3: タバコは嗜好品である。	1.68 ± 1.05	0.81 ± 1.02	1.64 ± 1.18	0.77 ± 1.04
Q4: 喫煙する生活様式も尊重されてよい。	0.53 ± 0.61*	0.06 ± 0.24**	0.89 ± 0.83*	0.44 ± 0.68**
Q5: 喫煙によって人生が豊かになる人もいる。	0.74 ± 0.71	0.19 ± 0.45*	1.08 ± 0.88	0.44 ± 0.68*
Q6: タバコには効用がある。	0.47 ± 0.64	0.06 ± 0.24*	0.58 ± 0.76	0.28 ± 0.51*
Q7: タバコにはストレスを解消する作用がある。	1.30 ± 0.91	0.58 ± 0.77	1.41 ± 0.91	0.82 ± 0.91
Q8: タバコは喫煙者の頭の働きを高める。	0.47 ± 0.64	0.19 ± 0.53	0.44 ± 0.60	0.56 ± 0.82
Q9: 医者はタバコの害を騒ぎすぎる。	0.25 ± 0.48*	0.10 ± 0.31	0.51 ± 0.60*	0.15 ± 0.37
Q10: 灰皿が置かれている場所は喫煙できる場所である。	1.92 ± 0.98	1.06 ± 1.14	1.90 ± 0.91	0.90 ± 1.02

* $P < 0.05$, ** $P < 0.01$ 平均 ± 標準偏差